平成２９年度南部地区道徳教育研究協議会指導講評より＜指導のポイント（抜粋）＞

【研究協議題:第1日】
「『特別の教科　道徳』の全面実施に向け、児童生徒の道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、道徳の時間の指導方法についてどのような工夫改善を図ることができるか。」

【授業全般について】

〇道徳の時間は「鏡」を見る時間です。自分の鏡と友達の鏡を見ることを通して、自分自身を見つめます。そのために、自分の内面を出したり、友達と対話したりすることが大切です。そして、一人一人のねらいとする価値への心の在り様に気付かせていきます。

〇道徳の時間は、教材資料の内容を教える時間でも読解力を試す時間でもありません。教材資料を通して、ねらいとする価値に関する自分の考えを明確にすることが大切です。「あなたならどうする？」を実行する道徳にしてほしいと思います。

〇道徳の時間は、子供同士の対話(話合い)を核にします。その際、登場人物等の気持ちを考えるだけの時間ではないこと、正解を求める時間でもないこと、教師の中にある何らかの答えを伝えないことなどに留意します。

〇道徳の時間は子供の心が表れます。日頃から、気兼ねなく言い合えるクラスの雰囲気を大切にします。

〇自分の気持ちの変容に気付くことができると、子供はさらに道徳に興味が湧きます。そのために、自分の気持ちの変容（ビフォーアフター）が分かるワークシートを用意することなども有効です。

〇道徳の時間は、教師自身が「本時のねらい」をしっかりと押さえ、ねらいに迫る授業を展開していくことが大切です。そのために、ねらいに沿った学習課題、発問、体験学習を経て、子供たちの価値理解→自己理解につなげます。くれぐれもワンパターンな授業に終始することなく、教師のレールに子供たちが乗ってくるようなプロデュース、考えをしぼるフィールドの設定をすることが大切です。

〇「どう思ったのか、どう考えたのか、どうしてそう思ったのか……」等々、どの部分で話し合わせたいのかを吟味します。これは年間指導計画を作成する際にも考えていただきたいことです。

〇座席は、学習の手立てに応じて、コの字型やイスのみにするなどの工夫をします。特にコの字型は、広がりすぎないように配慮します。友人との距離感が近い方が自分を出しやすくなります。

〇道徳で扱う問題は、着地点が道徳でなければなりません。道徳的価値のよさに気付いていないもの、実践を妨げているもの、簡単に解決策が見つからないもの、時と場合によって判断基準が変わるもの、どちらを選んでよいか分からないものなどについて、みんなで行為行動を考え、一人一人が納得解を導き出すことが大切です。

【授業における具体的な視点について】

〇役割演技の意義は、行為行動(見える)の基にある気持ち(見えない)に気付かせることにあります。したがって、何を投げかけ何を感じさせたいのかなど、ポイントを焦点化し、行為行動の基にある気持ちをしっかりと話し合わせることが大切です。また、役割演技の始めと終わりに合図を入れ、子供たち(演技者、観察者)の考えを聞くなど、一連の流れにメリハリを持たせることに留意します。

〇役割演技の効果的な設定の一つとして、葛藤場面が挙げられます。案外、小学校高学年以降の動作化は効果があり、自分を見つめることにつながります。

〇終末の振り返りでは、再度、本時の課題をクローズアップし、自分のフィールドで考えさせることで自己理解へつなげていきます。説話を行う際は、教師が役者になって投げかけるなどの工夫も必要です。

〇すべての発問は、ねらいに即して意図的に設定します。その際、発問の組立ては中心発問から考えます。

〇発問の際は、「間」に留意します。挙手そのものを待たせるなど、一人一人が確実に考える時間を確保します。

〇子供の反応を上手に拾いながら広げていきます。特に、教師にとって願ったり叶ったりの意見が出た後が大切です。「〇〇君がこう言っているけど、どうだろう」と全体に問いかける中で深まっていきます。

〇板書は、心の動きが分かる・見えることが肝要です。縦書きでも横書きでも、その時間に効果的な板書に心掛けていきます。また、板書のタイミングも重要です。子供たちの発言などがテンポよく行えるよう、要点を書く、まとめて書く、といった工夫も必要です。

〇板書は、例えば、前半の意見はチョークの色Ａ、後半の意見は色Ｂなど、子供たちとの約束づくりを行っておくとよいでしょう。

〇道徳ノートは学校全体で統一して活用していきます。特に、評価の手がかりは記憶より記録です。そのために、道徳ノートやワークシートなどで積み上げていく必要があります。

【研究協議題:第2日】

「『特別の教科　道徳』の全面実施に向け、自校の道徳教育の一層の充実を図るためには、全教職員の協力体制の確立、家庭・地域社会との連携が重要である。道徳教育推進教師として、どのような役割を担い、工夫改善をすればよいか。」

【道徳教育推進教師の役割】

〇道徳教育推進教師は、推進者、支援者、助言者、調整役などの役割を担います。

〇教員年齢の二極化が進む中、道徳教育推進教師には、若手教員とベテラン教員のパイプ役になることが大切になってきます。そして、自分がブレーンとなって組織で動く体制のために、「教科化」という大義名分のある今が、組織を再編成・拡充するチャンスといえます。

〇道徳教育を推進するためには、管理職をはじめ主要な主任と連携を図ります。また、縦割りではなく横のラインを見据え、共通理解をもつことが大切です。そのために「明日から何をするか……」について、見える化、具体化することが大切です。

【道徳教育の指導計画】

〇全体計画づくりを大切にします。その際、校長の方針をしっかりと計画に反映していくことが肝要です。また、別葉についても、他教科との関わりや、それぞれの教科がもつ道徳教育の視点を教師が意識できることからも作成が必要です。その際、作成することが目的にならないように、「計画が合っているか」も大切ですが、「計画を実行しているか」が最も大切です。計画に即して、学校行事の提案の際には、道徳教育の視点を盛り込んでいきます。

【道徳の時間の充実と指導体制】

〇「見える化」が大切です。年間指導計画(今月は何をするのか)の提示、教師用ノートづくり、道徳掲示板の設置・活用、子供の道徳ノート(思いの言語化)など「見える化」を図ることによって、教員一人一人の意識が高まります。

〇教材の整備、充実、活用には、図工の作品バックが適しています。その際、取り出しやすい場所に置くことや、資料一覧(ファイル化)を明示し、教員への情報発信、資料の共有化を図ります。

〇道徳ノート等は、子供のよさ(成長)を積極的に捉える(褒めるチャンスが見て取れる)視点を大切にします。ポイントは、学習状況と道徳性に係る成長の様子です。その際、書くことが負担にならないように配慮しながら、今までの自分と今日学んだことについての子供の学びを分析します。

【道徳教育に関する情報提供や情報交換】

〇教員や保護者向けの道徳通信を可能な範囲で発行したり、教室や廊下等へ「道徳コーナー」を設けたりして、教員同士の情報交換や保護者への啓発を図ります。他校の実践紹介なども有効です。

【家庭や地域社会との連携】

〇地域の人材をゲストティーチャーとして活用します。こうした活用に係る連絡・調整をするのも推進教師の役割です。その際、ゲストティーチャーとして何のために呼ぶのかを明確にしておきます。

〇家庭との連携においては、保護者の意識アンケートを実施し、保護者の願いを把握するなどして、学校全体で取り組む視点が大切です。また、家庭で道徳について考える日を設定し、コメントを保護者からもらうなどの取組も有効です。アンケートやコメントについては集約し、保護者へフィードバックすることにも配慮します。さらに、授業公開日等を活用して、グループの話し合いに入っていただくなどの保護者参加型の授業を行うことも考えられます。

〇学校間の連携においては、立地条件等がそれぞれ異なっています。是非、自校でできることは何かを考え取り組んでください。